

# 葉包紙し

一般社団法人岐阜県薬剤師会  
理事 中田裕介



「認知症」という言葉があります。ニュースなどで耳にすることも増えてきましたが、どんなものなのでしょう？

結論からいうと、認知症は「脳の病気」です。脳の神経が十分に働かなくなり、脳の機能＝認知機能が悪くなる病気です。かつては、「ボケ」「痴呆」で頭がおかしくなってしまう人という言い方もされていましたが、れっきとした病気であることがわかってきました。認知症には種類があることもわかってきており、「アルツハイマー型認知症」「血管性認知症」「レビー小体型認知症」他にも「ピタミン欠乏による認知症」など、原因によって区別されています。

認知症になると「物忘れ」「日時・場所がわからない」「家電が使えない」「判断力の低下」など、認知機能の低下に直結した症状（中核症状）が進行していきます。これらの症状は、薬で進行を遅らせることができる場合があります。早く薬を使い始めるのに越したことはありません。

## 認知症は脳の病気

せんから、少しでもおかしい？と感じることがあれば、身の回りの薬剤師など誰かに相談して、早期の受診・治療開始につなげましょう。

また、「暴言・暴力」「妄想・幻覚」「徘徊」「うつ」「不安」などの行動・心理症状（周辺症状）が出てくることもあります。ただし、認知症の患者さん全てに出てくるとは限らず、患者さんが抱えているストレスが原因になるとも言われています。症状が強い場合には、鎮静剤や漢方薬などが使われることもあります。薬を使う前に、ストレスの原因を見直すことも大切かもしれません。

認知症の人には「感情」は残っています。できていた事ができなくなったり、言いたい事がうまく伝えられなくなり、不安・恐怖・はんちうたい、そんな思いに押しつぶされそうになっているのかもしれない。

その行動や言動にこちらも振り回されることもあるかもしれませんが、そんな時こそ、やさしく微笑みかけてみてはいかがでしょうか。